施 策 評 価 シ ー ト

1 総合計画上の位置づけ

担当課： 行政情報課

施策名	45 行政事務DX
政策名	持続可能な行財政運営を行う
施策がめざす将来の姿	・ＩＣＴの活用により行政事務の効率化が進んでいます。 0

③ 施策評価指標

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
RPA導入による事務時間の削減	時間	566	1,000		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	723	718	971		

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
ICT機器・サービス導入の検討件数	件	46	100		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	61	73	82		

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
データ分析の活用数	件	0	250		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	72	94	88		

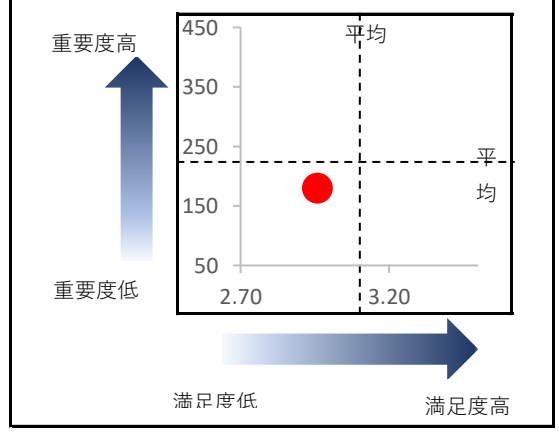
3 施策の重要度と満足度（市民アンケート調査結果）

重要度／単位（人）
令和7年度
179

満足度（満足している市民の割合）／単位（%）		
令和6年度		**令和7年度**
87.9	→	85.7

※増減（→）の基準は３ポイント以上とする

R7重要度・満足度（他の施策と比較した位置）



4 施策の課題と今後の方針

（施策評価指標等の分析のほか、今後重点化していく事務事業について、現状・課題・背景などを踏まえて記載。）

各施策評価指標は、改善・分析される担当課等の動きや要望に左右される性質が強いため、実績値が必ずしも右肩上がりになるわけではありません。また、デジタル推進室が関わったものだけではなく、全庁的には各課独自の活用事例があるはずですし、むしろ、デジタル推進室が関わらない形でのRPAやデータ分析の活用事例が増加することこそが、目指すべき形となります。今後は、生成AI等のサポートも受けつつ、現課のみで完結できる行政事務の効率化を実現できるように、研修等を実施していきます。

5 施策を構成する事務事業の今後の方向性

（右欄は、施策を構成する事務事業のうち、今後特に重点化するものに〇、縮小するものに△、廃止するものに▲を付す。）

事務事業①：行政情報基盤整備運用事業

R7決算額（千円）	重点化(縮小)する細事業（主なもの２事業まで）	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
390,677	RPA/AI-OCRライセンス購入	↗	↗	基幹行政システムの標準化により、RPAシナリオの作り直しが発生するため、その流れで新たな需要を取込み、利用を拡大します。人流測定ツールについては、事例の共有を進め、活用方法を広く募ります。	〇
	人流測定ツール	→	↗		